

2015 年 1 月 27 日

国際テクニカルアナリスト連盟 (IFTA)
認定テクニカルアナリスト (CFTe[®]) 各位
(第 2 次資格保有者各位)

国際テクニカルアナリスト連盟 (IFTA) 加盟
日本テクニカルアナリスト協会
特定非営利活動法人 (NPO 法人)

第 17 回 (2015 年度) テクニカルアナリスト国際資格 第 3 次資格試験のご案内

寒さ厳しき折、いかがお過ごしでしょうか？

さて、第 2 次資格保有者 (CFTe[®]) の皆さまにお知らせです。皆さんは、テクニカルアナリスト資格の最高峰である国際テクニカルアナリスト連盟 検定テクニカルアナリスト (MFTA[®]) (Master of Financial Technical Analysis) の受験資格を保有しています。

世界のテクニカルアナリスト協会の中で MFTA[®] 資格保有者は 100 名強おられます。そのうち、およそ半数は NTAA から輩出され、NTAA の MFTA[®] 資格保有率は世界の中でも高い割合を誇っています。

IFTA の資格制度認定委員会 (以下、「IFTA 委員会」という) は、今年も「テクニカルアナリスト第 3 次資格試験」を以下のとおり実施いたします。受験方法は論文審査形式、テーマの選定から研究アプローチなども全て受験者個人で設定していただきます。研究論文は、原則として英語で提出していただきますが、日本語の提出も可能です。その場合には、NTAA が翻訳業者への取り次ぎをしますので、英語が苦手な方でも安心して受験できます (別途翻訳料がかかります)。

【合格のレベル】

3 次試験はテクニカル分析の知識体系に独自の新しい知見を加えた功績に対して授与され、“Master (大学院の修士)” に相応しいレベルが要求されます。合格すると IFTA 委員会から英語の合格証が贈られ、さらに IFTA 委員会が優秀な論文だと認めた場合には“最優秀論文賞”が授与されます。皆様がこれまで蓄積、実証したデータをもとに MFTA[®] にチャレンジしてみたいかがでしょうか？

【合格後に取得できる資格名】

『国際テクニカルアナリスト連盟 検定テクニカルアナリスト (MFTA[®])』

IFTA 委員会の試験基準は別紙のとおりです。次頁以降の実施要項、受験要項ならびに留意事項を熟読の上、日本テクニカルアナリスト協会 (NTAA) 事務局宛にお申込みください。

1. 実施要項

(1) 試験形式

研究論文の提出

(2) 研究論文の基準

研究論文の内容は下記の基準を満たすものであること。

基準 a. オリジナル(独創的)なものであること。

基準 b. 少なくとも2つの国際市場(※注1)について論じたものであること。

基準 c. 筋の通った論理的な議論を展開するとともに、論文中に含まれる各種の検証(テスト)、検討(研究)および分析結果に裏付けされた適切な結論が導かれていること。

基準 d. 論文の内容は実際に応用可能であること。

基準 e. 国際テクニカルアナリシスの分野に新たな知識(body of knowledge)を加えるものであること。

※注1: 国際市場とは、米、欧、日本を含むアジア等の各国における株式・債券・為替等で国際的に開かれている市場とする。

(3) 研究論文提出の順序および期限

① 第一段階：論文概要の提出

- ・ 研究論文の第一段階として IFTA 委員会に対し、研究論文の概要（要約）を提出する。
- ・ 論文概要は論文が上記基準を満たしているかどうかを、IFTA 委員会が判定できる程度の詳細さが必要である。
- ・ 論文概要は、箇条書きにするなどコンパクトにまとめ、IFTA 委員会が読みやすいように工夫すること。
- ・ 論文概要の執筆は英語であるが、日本語で提出してもよい。
*ただし、日本語の場合は、NTAA へ提出する期限が英語提出者とは異なります。
また、英訳料については別途実費をご請求させていただきます。
- ・ 提出形式：Word で作成したもの
- ・ 文字数：日本語の場合は 1,800～3,750 文字、英語の場合は 750～1,500 ワード

② 論文概要の認定

- ・ IFTA 委員会は、提出された論文概要が前記基準 a から基準 e を満たしているかどうかを認定する。
- ・ 基準を満たしていないと思われる概要については、論文作成にあたり考慮すべき助言、注意事項、条件等が付されて認定されることがある。

③ 第二段階：研究論文（本論文）の提出

- ・ IFTA 委員会より論文概要の認定を受けた者は、第二段階として研究論文を提出する。

- ・ 研究論文は前記基準を満たしていることはもとより、認定された論文概要を逸脱してはならない。また、IFTA 委員会から条件等を付されている場合には、これらを全てクリアすること。
- ・ 研究論文の執筆は英語であるが、日本語で提出してもよい。
*ただし、日本語の場合は、NTAA へ提出する期限が英語提出者とは異なります。
また、英訳料については別途実費をご請求させていただきます。
- ・ 提出形式：Word で作成したもの。
- ・ 文字数：日本語の場合は 7,600～12,500 文字、英語の場合は 3,000～5,000 ワード

④ 研究論文の合否判定

- ・ IFTA 委員会は、専門の試験官による審査を経て論文の合否を判定する。
- ・ 合格者には IFTA 委員会より MFTA[®] (Master of Financial Technical Analysis) の称号が付与され、英文の合格証が贈られる。

(4) 不合格論文の取扱い

- ・ 不合格者は、その論文を修正して翌年再提出することができる。
- ・ 採点結果に不服な受験者は IFTA 委員会に採点の見直しを求めることができるが、その結果として判定が変わらなかった場合には、当該論文は翌年再提出できない。
- ・ 研究論文の見直しには相当な時間を要する上、見直し料金が必要となる。

申込締切日： 2015 年 2 月 25 日(水) NTAA 事務局必着！

第 3 次資格試験受験申込から合否判定までのスケジュール

	英語で提出する受験者	日本語で提出する受験者
受験申込〆切	2015 年 2 月 25 日(水)	2015 年 2 月 25 日(水)
論文概要の提出期限 (論文概要文字数)	2015 年 4 月 27 日(月) (750～1,500 ワード)	2015 年 3 月 27 日(金) (1,800～3,750 文字)
論文概要の認定結果	2015 年 6 月中旬頃	
研究論文の提出期限 (研究論文文字数)	2015 年 10 月 9 日(金) (3,000～5,000 ワード)	2015 年 9 月 4 日(金) (7,600～12,500 文字)
3 次試験の合否判定	2016 年 4 月頃	

※1 受験申込書、論文の提出先は全て NTAA 事務局となります。

※2 上記スケジュールに遅れた論文は受付致しかねます。期日は厳守していただきますようお願い申し上げます。

2. 受験要項

(1) 申込手続

申込みは、NTAA が IFTA へ取り次ぎいたします。第 3 次試験受験希望者は、下記の順序に従って NTAA 宛に申し込んでください。申込み資格者は国際テクニカルアナリスト連盟(IFTA) 認定テクニカルアナリスト(CFTe[®])(第 2 次資格保有者)となります。

① 申込方法

1. 申込書を NTAA 事務局宛に電子メールで送付してください。

2. 受験料はお振込期限までに下記口座にお振込ください。

※申込書は、本要項最終ページに貼付してあります。

※送付先 office@ntaa.or.jp

※日本語受験者と英語受験者とはお振込期限が異なりますのでご注意ください。

② 申込み〆切日

2015 年 2 月 25 日(水) NTAA 事務局必着

③ 受験料 **10 万円 (論文概要提出日までにお振込ください。)**

※ IFTA が設定する受験料は 900 米ドルですが、為替レートは変動しますので当協会所属の受験者の方には、最初に日本円で 10 万円振込んで頂きます。論文の概要提出時点における TTS レートで換算した金額との差額が出た場合には、受験者の方にご連絡の上、不足の場合には再度ご請求、剰余となった場合にはご返金いたします。

【お振込期限】

日本語受験者 **2015 年 3 月 27 日(金)**

英語受験者 **2015 年 4 月 27 日(月)**

④ 受験料お振込口座

銀行口座名:三菱東京 UFJ 銀行 日本橋支店 普通預金 2017789

名義: 特定非営利活動法人 日本テクニカルアナリスト協会

カナ名義:トクヒニホンテクニカルアナリストキョウカイ

(振込手数料は受験者負担)

⑤ 申込みにあたっての留意事項

- ・ IFTA 委員会へ論文概要を提出した後の取消はできかねますので、あらかじめご了承ください。

(2) 論文概要および研究論文の提出方法

- ・ 論文概要および研究論文は NTAA 事務局宛に電子メールにて提出してください。
提出先メールアドレス: office@ntaa.or.jp

3. 研究論文執筆にあたっての留意事項

受験者は下記事項を熟読し論文概要と本論文を提出してください。

(1) 全般的な事項に関する留意点

- ① 定められたルール（研究論文の基準および実施要項）を厳守すること。
- ② ビジネスレポート（相場見通しや解説文等）のような形式に陥ることなく、学問的に受入れられる論文の形式を整えること。
- ③ マクロ経済・政治およびファンダメンタル用語で過去を分析し、批判するのはテクニカル分析ではない。ファンダメンタルの要素は極力排除すること。
- ④ 原稿の下部にページを入れること。
- ⑤ 提出するワードファイルには「受験者の名前とタイトル」を入れること。

(2) 論文概要と研究論文の関係に関する留意事項

- ① 論文概要は研究論文で取上げる事項とそれについての論旨を簡潔、かつ正確に記述したものでなければならない。
- ② 論文概要で記述していない事項を研究論文の中で取上げてはならない。
- ③ 論文概要で記述した事項は、既知のものとして研究論文で省いてはならない。
- ④ 論文概要の認定にあたって、IFTA 委員会が、研究論文で強調すべき事項または論議を避けるべき事項等を助言したり注意事項や条件等を付す場合があるが、受験者は必ずそれを厳守すること。

(3) 研究論文の内容に関する留意事項

- ① 研究論文の基準であるオリジナルなもの（基準 a）とは、従来の分析手法もしくはよく知られた手法を新たな観点から見直すことも含まれるが、その場合には **body of knowledge**（基準 e）の蓄積度は弱くなる（第 3 次試験では基準 e が要求される）。
- ② 研究論文の結論を導く場合には、その裏付けとなる資料（チャートや図表）を付し、適切な書き込みを入れること（基準 c）。IFTA 委員会が受験者の論旨を理解するのに役立つため。
- ③ チャートや図表には、明瞭かつ適切なタイトル（表題）を付けること。
- ④ 引用した文献やデータは出典を明らかにし、注記を付けること。
- ⑤ 研究論文は単なる解説的なものではなく、今後の応用を可能にするような方法論を取ること（基準 d）。

(4) 研究論文の構成

- ・ 第一部（研究の目的） 研究（リサーチ）の目的および研究対象の概要
 - ・ 第二部（方法） 研究（リサーチ）の方法および実施するテストの内容
 - ・ 第三部（裏付け） 論拠の裏付けとなっているテスト等の結果
 - ・ 第四部（考察） 第三部から導かれた結論および考察
- 付表 追加データがあればそれについて記し、参考文献および受験者の略歴を記す。

4. お申込み・お問い合わせ先

国際テクニカルアナリスト連盟 (IFTA) 加盟 日本テクニカルアナリスト協会事務局

TEL 03-5847-2231 (平日 9:00~17:00) Email: office@ntaa.or.jp

以上

申込日 2015 年 月 日

国際テクニカルアナリスト連盟(IFTA)加盟
日本テクニカルアナリスト協会 御中

**第 17 回(2015 年度)テクニカルアナリスト国際資格
第 3 次資格試験 申込書**

私は、第 17 回テクニカルアナリスト第 3 次試験を受験致します。

お名前	
英文表記名	
生年月日(西暦)	年 月 日 (歳)
論文タイトル	※タイトルは仮で結構です。
NTAA 会員番号	
ご自宅住所	〒
ご自宅電話番号	
携帯電話番号	
メールアドレス	
勤務先名	
勤務先住所	〒
勤務先電話番号	
受験時使用言語	日本語 ・ 英語 (○で囲む)

【申込締切日】 2015 年 2 月 25 日(水) NTAA 必着

※受験料のお振込は論文概要提出期限までにお手続き願います。

※本申込書は、電子メールでご提出ください。(提出先:office@ntaa.or.jp)

【個人情報の取り扱いについて】

- ◆本申込書により取得した個人情報は、次の目的で利用いたします。
当協会の業務の運営上必要な書類ならびに書籍等の送付、および各種連絡。
- ◆本申込によって取得した個人情報については、個人情報保護法に定める場合を除き、ご本人の同意なく、利用目的以外の利用および第三者への提供はいたしません。